

さくらタイムス 令和6年11月号

お題は「ブロック」です。さくらには色々なブロックがあり、毎日のようにお部屋に広げて遊べるようにしています。ただ組み合わせで好きな形に作り上げてゆくだけのように見えますが、毎日見ている目には相当の「個性」がそれぞれにあります。大きく複雑な形で「これは新幹線・おうち」などなど自分で作品名をつけられる園児は、色彩感覚も豊かで、着ているシャツと同じ色合いの作品を作ったりもできます。また、縦・横・斜め等の角度から眺めつつ組み立ててゆくことから、空間認識能力が発達しています。その結果、身体も無駄なく・素早く・力いっぱい動くことができます。こうした子どもはテレビ・ビデオ・スマホなどを見ておらず、よく食べ・しっかり睡眠をとれる健康的な生活をしています。また絵本や紙芝居が大好きで、「受け身」のテレビなどと違って、目の前の「登場人物や背景」の情報を自ら意識を伸ばして意欲的に取りにかかってきます。7歳前後までは「全脳」と言われる左右の脳が一体として機能する状態なので、取った情報はすべて吸収されます。そしてこの意欲の継続が素晴らしい「集中力」として発達し、これからの人生全般でかけがえのない力となります。

こう言ったからといってメディアを全否定するものでは決してありません。番組コンテンツには素晴らしいものが沢山あり、いつも最新の役に立つ情報をいただいています。ただ、画面から出るブルーライトが幼い目を通して脳に与える影響として、多動や空間認識能力が未発達となるようなダメージがあまりにも多く、小児科学会も強く注意を呼び掛けています。さくらでは、見学時からご家庭でテレビなどを見せないようお願いしています。入園時には、

ブロックを組み立てられず、動き回ってばかりいた子どもがだんだんと落ち着いて、形ある作品を作れるようになってゆきます。できれば左右の脳が独立する7歳前後までは見せないようにしていただければと思います。さくら卒には小学校入学後も「見ていない」お子さんが少なからずいて、性格が穏やかで様々に成長発達が素晴らしいようです。

人生の始まりでよい方向に進むかどうかは、子ども自身ではなく、関わる大人の「環境設定」にかかっています。　かわいい我が子のため、ぜひ賢明なご配慮をお願いいたします。

園長 山内 香幸